



僕らの暮らして、おもしろくなる

鈴ノ山野晃浩



できるだけ自分の身体を使って暮らすこと。

そして友人から届いた写真や絵をギャラリーのように飾ること。

わが子の作品も暮らしの中でいっぱい展示すること。

といちちゃんやばあちやんがこしらえてくれたものの道理を学ぶこと。

隣近所の人にお褒め分けしたり、

されたりしながら、おしゃべりを楽しむこと。

世界は創られる、僕らの手で、

世界は変えられる、僕らの暮らして、

世界はほんの少しかもしれないけど、おもしろくなる。

できるだけ自分たちで育てた野菜や果物や、自分たちでとった魚や肉を食べること。

そして食卓に友人が作った器やワインやスイーツを交えること。

わが子にも一緒に料理を手伝ってもらうこと。

といちちゃんやばあちやんとも

いろいろな料理をシェアすること。

隣近所の人もたまに呼んで

一緒に飲んで歌って踊ること。

世界は創られる、僕らの手で、

世界は変えられる、僕らの暮らして、

世界はほんの少しかもしれないけど、おもしろくなる。

山の上の食事会

巻紙によせて

きっかけは上層に移住した20代の方たちが、標高400メートルの山の上のわが家に遊びに来たことからだった。次回も何かみんなでご飯を作って食べましょうと誘われ、それから3年続いている。

年に4度ほど、季節が移り変わる頃に、最近ではメンバリの家々で食事会を催している。これまで大豆から汲み上げ湯葉や豆腐を作ったり、あんどを炊いて、包む生地に焼印を押してたら焼きを作ったり、酢飯とえさを用意して握り寿司をしたり……。料理やスイーツを自分たちで作るのが好きで、それゆえいろんな道具や器を集めたり、瓶立や花を飾ったりと、おもてなしが好きな若い方たちに出会えたことはいっ刺激になっている。

今号の表紙は、今年の2月の節句に招かれた食事会（準備中）の写真。手作りのヴィーガンヨーネーズのサラダや、自家製みそを添えたふろふき大根・具沢山の鶏飯などを添えて作ってくれた料理をいただきながら、もてなしてくれた方が家に来た初めての遊びに来た夜のことを懐かしく思い出して、またその進化に驚かされた。

目次

2024 春

- 1 山の上の食事会
- 2 僕らの暮らして、おもしろくなる
- 3 A 面 KAMIKATSU
- 5 2ぶたくバカ一代
- 7 Foreign Memories
- 9 大久保竜一さん
- 11 中野聖治
- 13 松尾
- 15 松尾聖子
- 17 椅子のある生活
- 19 B 面 KAMIKATSU
- 21 A 面 雑記
- 21 中野聖治
- 21 介
- 21 サカマキマサ
- 21 豊原ギャラリー北沢家
- 21 北沢心

本誌の記事、写真、イラストの複製権をすべて、©わかづ出版2024